

交通バリアフリー推進ネットワークメールマガジン登録団体 各位

交通バリアフリー推進ネットワークメールマガジンをお送りしますので、ご覧ください。

なお、配信方法をE-mailに転換していきたいと思っておりますので、info@ecomoo.or.jpまでお知らせ頂ければと思います。

また、配信の停止等に関しても、info@ecomoo.or.jpもしくはFAX（03-3221-6674）までお知らせ頂ければと思います。

交通バリアフリー推進ネットワークメールマガジン VOL. 72

2008年11月28日

目次

▼アンケートのお願い

▼「エコモ」からのお知らせ

■らくらくおでかけネット

■小中学生の総合学習、修学旅行等の受け入れのご案内

▼「行政」からのお知らせ

■【国土交通省】交通バリアフリー法、バリアフリー新法移動円滑化基本構想策定状況（平成20年9月まで）

■【国土交通省】バリアフリー基本構想作成に関するガイドブック

▼ニュース

▼各種催し物のお知らせ

▼コラム

▼その他

▼アンケートのお願い

毎月、「交通バリアフリー推進ネットワークメールマガジン」（以下、メルマガ）をご愛読いただき、誠にありがとうございます。

さて、本メルマガも時間の経過とともに、事務局からの記事を中心とした情報提供が主たる内容となっております。つきましては、今後のメルマガに対するご要望やご意見を賜りたく、さらなる内容充実にむけた取り組みを行いたいと存じます。大変お手数ではございますが、下記のアンケートにお答えいただきますようよろしくお願い申し上げます。

【アンケート】

1. 現在のメルマガの情報量について

① 多い ② 丁度良い ③ 少ない（どの内容を増やしてほしいですか。）

2. 現在のメルマガの内容について

① 知りたい情報が記載されている ② 時々、記載されている ③ 記載されていない

3. 主に活用している記事はなんですか。

① エコモ関連 ② 行政関連 ③ ニュース ④ 各種催し物 ⑤ コラム

4. 投稿していただける記事（ネットワークに関すること）について

① 投稿したい ② あれば投稿したい ③ 特にない

5. その他のご意見等について

送付先：info@ecomoo.or.jp宛にタイトル：【メルマガアンケート回答】として、ご返信ください。

ご協力ありがとうございました。今後ともよろしくお願い申し上げます。

▼エコモからのお知らせ

■らくらくおでかけネット

現在は、鉄道駅 4,072 駅、空港 85、バス 158、旅客船 411 ターミナルの情報を提供しています。最近の1日のアクセス件数は、約 3,000 件です。

リンクご希望の方はご連絡ください。

(パソコン版)<http://www.ecomo-rakuraku.jp/rakuraku/index/> (携帯版)<http://www.ecomo-rakuraku.jp/rakuraku/mobile/>

■小中学生の総合学習、修学旅行等の受け入れのご案内

当財団では、小中学生の皆さんの総合学習や修学旅行の受け入れを行っています。講習内容は、「バリアフリーやユニバーサルデザインの歴史」、「バリアフリー新法について」、「バリアフリーの現状」などです。また、車いす体験や高齢者疑似体験等、ご希望に沿った内容で実施しています。詳細につきましては、お問い合わせください。

詳細は→ http://www.ecomo.or.jp/barrierfree/excursion/excursion_top.html

▼行政からのお知らせ

■【国土交通省】交通バリアフリー法、バリアフリー新法移動円滑化基本構想策定状況（平成 20 年 9 月まで）

基本構想を作成済みの市区町村 251 市町村(321 基本構想)

※5000 人以上の旅客施設が所在しない市町村の基本構想も件数に含む。

詳細は→ <http://www.mlit.go.jp/barrierfree/transport-bf/basicplan/jurijukyou2009.pdf>

■【国土交通省】バリアフリー基本構想作成に関するガイドブック

本ガイドブックは、基本構想を作成していない市町村にあつては、基本構想を作成する際に、旧交通バリアフリー法に基づく基本構想を作成した市町村にあつては、バリアフリー新法に対応した基本構想に更新する際に、参考として活用していただくことを目的として作成したもの。

詳細は→ <http://www.mlit.go.jp/barrierfree/transport-bf/basicplan/guidebook.pdf>

▼ニュース

(業界紙面より)

□子ども参加しバリアフリー教室／関東運輸局 (東京交通新聞 11/3 付)

関東運輸局東京運輸支局は 10 月 26 日、杉並区立馬橋小学校で開催された「地域の交通安全ふれあいフェア」(主催ニ東京都など)で「交通バリアフリー教室」を行った。杉並区社会福祉協議会、京王バスが協力した。「高齢化社会に向けて手助けがしやすい環境をつくる心のバリアフリー」を広めることを狙いに参加を呼びかけ、60 人が同教室を体験した。(略)

□ノンステップバスが増加／中部運輸局 (東京交通新聞 11/3 付)

中部運輸局がまとめた 2007 年度の管内バリアフリー化進ちょく状況によると、車両関係については乗合バスは 42.2%が低床化された。前年度より 6 ポイント改善され、全国平均 37.3%を上回っている。また、27.0%がノンステップ化された。前年度より 4.5 ポイント改善され、全国平均 20.3%を上回っている。福祉タクシーは、961 台で前年度より 13 台減少している。全国では 1 万 0514 台で前年度より 861 台増加している。

□スイカポスター機能付き駅周辺案内図 ナビタッチ拡大 (交通新聞 11/6 付)

JR 東日本の首都圏主要駅構内で、Suica ポスター(SuiPo)機能付き駅周辺案内図「ナビタッチ」の設置数が増加している。11 月 1 日からは大崎、恵比寿駅構内に 3 カ所新設された。本年度には 15 駅 20 カ所まで拡大する見込み。

★SuiPo とは？

FeliCa カード+携帯電話、電子マネー利用携帯電話で、駅ポスターの情報や駅周辺案内図の詳細を携帯電話で受け取ることができる新しいスタイル「タッチの続きはケータイで」を目指した新しい交通広告です。

□京王電鉄、きょうから新型 1000 系運転 (交通新聞 11/10 付)

京王電鉄は 11 月 10 日から、井の頭線で新型 1000 系車両の営業運転を開始する。エネルギー効率に優れた VVVF インバータ制御装置を搭載した省エネ型で、分かりやすい案内表示の導入やより進んだバリアフリー化など、利用者に優しい設計になっている。(中略)また、車両乗降口とドア先端部を黄色で示すなどを図っているほか、つり革や荷棚などを低い位置に設

計してユニバーサルデザインにも配慮している。

□新幹線全編成に AED JR 東日本来年 3 月末までに (交通新聞 11/11 付)

JR 東日本は、11 月 6 日、東北・上越・長野・山形・秋田新幹線の全 131 編成に AED(自動体外式除細動器)を搭載すると発表した。導入作業は 2009 年(平成 21 年)2 月以降に開始し、同年 3 月末までに完了させる。

□東北新幹線 八戸—新青森間 2010 年 12 月開業へ (交通新聞 11/12 付)

JR 東日本は 11 月 10 日、鉄道建設・運輸施設整備支援機構が建設を進めている東北新幹線八戸—新青森間(線路延長 81.8 キロ)の開業時期について、これまでの 2010 年度(平成 22 年度)末から前倒して、2010 年 12 月を目標にすると発表した。建設工事が順調に進み、地元を含めた関係者間の調整なども図られたことから、開業予定時期を約 3 カ月前倒しする。

(各社ホームページ)

□ 駅における省エネルギー化の取り組みについて (JR 東日本 HP より 11/6 付)

JR 東日本グループ社会環境報告書 2008 における地球温暖化防止への取り組みとして、「駅・オフィスにおける使用エネルギーを 3 年間で 4.5% 削減(2010 年度目標)」する目標を新しく設定する。その具体的な取り組みとして、山手線目白駅と中央線市ヶ谷駅において CO2 排出量を削減することを目的とした、駅における省エネルギー化(電力設備)の試行に着手する。また、導入後の省エネ効果を評価し、他の駅への拡大を検討していく。

詳細 → <http://www.jreast.co.jp/press/2008/20081103.pdf>

□ DMV(デュアル・モード・ビークル)の運行実績について (JR 北海道 HP より 11/10 付)

JR 北海道では、昨年度に引き続き平成 20 年 4 月 26 日から DMV の実用化に向けた試験的営業運行を釧網線浜小清水駅—藻琴駅間で行っていた。11 月 9 日をもって試験的営業運行を終了し、計 2,030 名の利用があった。そこで今年度の DMV の運行実績についてまとめましたので、お知らせする。

詳細 → <http://www.jrhokkaido.co.jp/press/2008/081110-1.pdf>

□ 羽田空港行き列車到着時に「空港チャイム」が流れます (京浜急行電鉄より 11/14 付)

京急電鉄(本社:東京都港区 社長:石渡 恒夫)では、羽田空港駅開業 10 周年記念日にあたる 11 月 18 日から品川駅において、羽田空港駅行列車到着時に流れる案内放送のジングルとして、空港ターミナルで広く使用されているチャイム音を使用する。これは羽田空港駅をご利用されるお客さまの利便性向上を図り、また「空の玄関口」のイメージを醸成するために実施する。

詳細 → http://www.keikyu.co.jp/corporate/press/_tmp_mk_auto/20081114.shtml

(その他)

□ 車いす見学の実現へ調査 姫路城「平成の大修理」 (神戸新聞より 11/12 付)

世界文化遺産・国宝姫路城で来秋から始まる「平成の大修理」を前に、兵庫県立福祉のまちづくり工学研究所(神戸市西区)などが、障害者の登閣を支援するための調査に乗り出した。姫路市は期間中、大天守を覆う素屋根(工事用の足場)内で修理状況を公開し、車いすの障害者らの見学を歓迎するが、石段や傾斜の多い城内をどう移動してもらうかが悩みの種。バリアフリー化が困難な要塞(ようさい)に挑む調査が注目される。

○ 多い通路の段差や急傾斜 城特有の複雑さ克服図る 県立福祉のまちづくり工学研究所

修理は約 5 年間で、2011 年春には大天守を完全に覆い、漆喰(しっくい)壁の塗り替えなどを施す。素屋根内に見学室とエレベーターを設け、最上層の修理を公開。これまで登閣できなかった車いすの障害者らにも見てもらう。ただ、素屋根がでる大天守の下までは登る必要があり、城特有の複雑な縄張りが「壁」に。姫路市は緊急車両用にスロープを付けた経路を検討しているが、完全とはいえなかった。同研究所と近畿大学は 10 月から、同経路を調査。手動や電動車いすで移動し、訪れた障害者に聞き取りをするなどして、段差が多い門の付近を中心に確認した。その結果、門の前後にスロープの傾斜がきつい上、段差があり、介助者がいても通行が困難な場所が数カ所見つかった。今後調査を進め、市に対する提案をまとめる。同研究所の北川博巳主任研究員は「遺産の価値を損なわないよう、スロープの設置や、車いすの改良など多方面から模索したい」と話す。国指定史跡地内では、現状を変更する際、文化庁の許可が必要となる。市は「調査結果を参考に期間中、仮設スロープの設置や、介助員を待機させるなどの対策を検討したい」としている。

□ 阪急西宮／ガーデンズ：バリアフリー状況、車いすで確認—利用者ら／兵庫 (毎日新聞より 11/13 付)

阪急西宮北口駅前に阪急西宮北口駅前に11月26日開業する大型商業施設「阪急西宮ガーデンズ」で11日、西宮市の障害者自立支援団体「メインストリーム協会」の車いす利用者7人と介助者10人が施設のバリアフリー状況を確認した。同施設では、身体障害者用に特別なゲートで仕切られた22台分の駐車スペースを設けるなどバリアフリーに取り組んできたという。この日は車いす利用者が実際にトイレに入ったりエレベーターに乗るなどして使い心地を確認した。同協会は2000年の交通バリアフリー法施行以降、市内の駅や公共の建物などの視察を実施。今年3月にはリニューアル中の阪神甲子園球場を視察し、球場関係者に要望を出すなどしている。西宮ガーデンズに関しては昨年10月、阪急電鉄との間で協議の場を持ち、トイレのドアを車いすでも開けやすい引き戸にしたいなどと要望した。この日は阪急電鉄の係員の案内のもと、約2時間かけて館内を巡回。トイレの数や広さ、エレベーターの幅などを丹念に調査。「映画館の最前列にある車いすスペースからでは画面が見にくい」などの問題点を指摘したが、床と店の入り口に段差がないことや車いす用以外のトイレにもスペースが取られ、車いすで利用できることなどを挙げ、全体として「使いやすいのではないかと高く評価していた。

□ ポーラスター：新高速旅客船の就航式 関係者ら100人が祝うーむつ／青森（毎日新聞より11/14付）

むつ市の脇野沢港で11月13日、青森ー佐井を結ぶ新しい高速旅客船「ポーラスター」の就航式があった。運行会社「シライン」（青森市）や自治体の関係者ら約100人が、テープカットなどをして就航を祝った。「ポーラスター」は北極星の意味で、下北半島を照らす希望の星となってほしいとの願いを込めて命名された。79年建造の「ほくと」が老朽化したため、国や下北半島の全市町村から援助を受けて造られた。全長32メートル、総トン数101トン。青森ー佐井をこれまでと同じ2時間20分で結ぶ。「ほくと」（全長約30メートル、90トン）に比べると安定感が増し、欠航率が少なくなると期待されている。車いす用のトイレを設置するなどバリアフリー機能も新たに備わった。浜崎正明・代表取締役は「観光でも生活航路でも重要。地域の活性化につなげたい」と話していた。

□ 交流イベント：障害者への理解深めよう 今市小で小学生ら、盲導犬と触れ合い／島根（毎日新聞より11/23付）

車いすに乗って段差やスロープを体験してバリアフリーの大切さを実感したり、盲導犬と触れ合ったりして障害を持った人たちと交流するイベントが11月22日、出雲市今市小学校で開かれ、小学生や保護者ら約40人が参加した。「出雲市民ボランティアウィーク10周年記念・まちサポいずも」のイベント。実行委では「10年でボランティアの輪が大分広がった。障害者への理解も深まっていけば」としている。車いすのコースは実際に車いすを利用する人たちから声を集めて設営。利用者が普段感じている不便さを参加者が体感できるように工夫した。スタッフとして参加した島根大学医学部6年の竹野歩さん(25)は「わずか1センチほどの段差でも車椅子の人にとっては大変」と話す。交流会では「普段の生活で困ることは」といった質問に、障害者からは「バリアフリー住宅が少ない」「読み書きや歩くこと」に困るといった意見が出た。盲導犬をつれてイベントに参加していた川上功さん(52)は、中学生のころに網膜色素変性症で視覚障害者となった。盲導犬のキャメルとは1年半前から行動を共にしているが、すでにタクシーの乗車拒否や飲食店への入店拒否が8回あったという。川上さんは「出雲には盲導犬が3頭しかいないが、このような場に参加することで盲導犬への理解が広がればうれしい」と話した。アイマスクで目隠しをして杖を使いながら歩行する体験をした大津小3年の青木柚菜ちゃん(9)は「アイマスクをして歩くのはすごく怖かった。目の見えない人は歩けてすごいなあ」と話した。

▼各種催し物のお知らせ

□P. P. C. 2008 第10回 西日本国際福祉機器展

<http://convention-a.jp/fukushi/>

日時:11月28日～30日 / 場所:西日本総合展示場・新館(北九州小倉北区浅野3-8-1)

主催:西日本国際福祉機器展実行委員会/財団法人西日本産業貿易コンベンション協会

内容:九州経済産業局、福岡県、北九州市など行政機関や関係団体で実行委員会を組織し、地域の福祉施策とも連動したパブリックな展示会 等

□移動支援フォーラム2008 ～誰でも自由に移動できる社会へ・・・

<http://ido-shien.mobi/forum/2008.html>

高齢や障害によって移動が制限されると、思いどおりの日常生活が送れません。自由なアクセス＝移動・交通は、現代社会が求める必須条件です。だれでも自由なアクセスを実現するためには、高度な技術を開発・生産するばかりでなく、人々の生活と環境を見なおす必要に迫られます。そこで今年のフォーラム前半では、「交通バリアフリーと街づくり」をテーマに、住民の参加と行政の役割について明らかにします。また後半では、いわば人の暮らしと隣り合わせの、個別なニーズに応えるSTSのあり方について、新たなスタートを提案するつもりです。

日時:11月29日(土)13:00～17:00

場所:文京区アカデミー茗台(めいたい)学習室A <http://www.city.bunkyo.lg.jp/gmap/detail.php?id=1995>

定員:80名/参加費:1000円

申込:メール forum@ido-shien.mobi 専用サイト <http://ido-shien.mobi/workshop/apply.php>

□連続シンポジウム 差別のない社会を目指して ～障害者権利条約批准と完全実施へ向けて・バリアフリー社会実現のため～

◎2006年12月13日、第61回国連総会にて満場一致で障害者権利条約が採択されました。今後批准に向け国内法整備が行われるとわれています。国内における障害者の生活実態をみても、基盤整備が進んできているとはいえ、依然として「電車バスに車いすのまま 乗れない」「障害を理由に普通校へ行けない」等、多くの「差別」の実態があります。

◎このように依然としてなくなる差別問題に対し、障害者権利条約がどのような影響を与えるのか、講演会・シンポジウムを実施し、多くの障害当事者はもとより、市民が条約の内容を理解することが大切です。

◎差別のない社会を目指すため、講演会・シンポジウムを2回に分け、企画しました。第2回目として「障害者権利条約批准と完全実施へ向けて・バリアフリー社会実現のため」をテーマに議論を行います。

日時:11月29日(土)13:00～16:30

場所:愛知県刈谷市 刈谷市市民会館3階 まつの間

定員:90名/参加費:無料

主催:愛知県/委託先:愛知県重度障害者団体連絡協議会

▼コラム

障害者週間

12月3日から12月9日までを「障害者週間」として、様々な意識啓発に係る取組が展開されます。「障害者週間」の関連行事(<http://www8.cao.go.jp/shougai/index.html>)については、内閣府において取りまとめて発表していますので、是非、積極的に参加してみてください。

なお、障害者週間は、皆様よく存じたと思いますが、少し経緯を書いてみますと、12月3日は、1982年「障害者に関する世界行動計画」が国連総会で採択された日、さらに1992年第47回国連総会において、12月3日を「国際障害者デー」と宣言した日でもあります。また12月9日は1975年に「障害者の権利宣言」が国連総会で採択された日でもあります。そのことから、わが国の障害者施策推進本部がもっと障害者施策を推進したいという考えから1995年に、「国際障害者デー」の12月3日から、「障害者の日」である12月9日までを「障害者週間」とすることを決定。さらに法律においても、2004年の障害者基本法の改正により、「障害者の日」を「障害者週間」へと拡大しています。

いずれにしても、わが国の障害者施策は1981年の国際障害者年を契機としてあらゆる施策が推進されてきましたが、その展開はつい最近のことです。まだまだわが国はバリアだらけです。特に、人々の偏見、無理解の解消は長い年月がかかりそうです。全てのバリアフリー設備を整備しなくても人と人とのコミュニケーションによりかなりバリアは解消できますよね。早く特別ではなく、普通に、当たり前に行動できる社会環境、社会生活のため皆さまと協力して進んで行きたいと考えております。

▼その他

記事募集中！！

本メールマガジンへの掲載記事を募集中です。バリアフリーに関連する取組みや話題、催し物の案内等を事務局までお寄せください。

----- 【INFORMATION】 -----

○記事募集中！！ : info@ecomoo.or.jp

○配信先変更・停止、ご意見・ご感想 : info@ecomoo.or.jp

○交通バリアフリー推進ネットワークマガジンはバリアフリー推進ネットワークの著作物です。転送・転機する場合は、必ず事前にご連絡ください。 : info@ecomoo.or.jp



バリアフリー推進ネットワーク事務局(交通エコロジー・モビリティ財団)

E-mail : info@ecomoo.or.jp

URL : http://www.ecomoo.or.jp/barrierfree/mailmagazine/mailmagazine_top.html

